

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	紀の川市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実施計画		【計画の改善時期】 平成30年度
4 実施計画期間	平成 24 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
和歌山県文化振興基本計画(平成22年策定)を踏まえ、地域の文化遺産を次世代に受け継ぐため、またその文化遺産を活用し地域活性化を推進するために以下の事業を実施する。また、この事業を実施するにあたり、行政と文化財保護団体、文化振興推進団体が連携・協力し、文化遺産の活用を行う。			
6 実施体制			
本事業については、紀の川市が全体の事業実施の指導等を行う。 主な担当課役割 生涯学習課・・・文化財関係に関する指導等 観光振興課・・・観光業務に関する連携、事業実施団体との調整等 事業実施については、粉河祭保存会代表者、粉河検定実行委員会代表者、大飯盛物祭実行委員会代表者によって構成される紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実行委員会が行う。			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 75,748 千円	平成30年度申請額： 4,095 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
本事業を実施することにより、粉河祭の素晴らしさ、その伝統や文化を後世に継承していかなければならないという意識を地域住民に持ってもらい、粉河祭が地域力向上の基礎となるような存在になることを目標とする。それにより、粉河祭保存会会員、粉河祭来場者、紀の川市への観光客の増加につながる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
現在、計画策定の予定なし			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	紀の川市役所教育委員会生涯学習課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1：	地域の祭礼行事等への入込客数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 1：	粉河祭参加者数の増減			関連事業：	①②③	
目標値 1：	【現状値】 平成 28 年度 52,000（人）⇒【目標値】 平成 33 年度 80,000（人）					
設定根拠 1：	5 年後に50%以上の増を設定					
進捗状況 1：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
50,000（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	
-7%						
目標区分 2：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2：	地域の文化遺産への来場者数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 2：	紀の川市への観光客数			関連事業：	①④	
目標値 2：	【現状値】 平成 28 年度 2,000,000（人）⇒【目標値】 平成 33 年度 2,200,000（人）					
設定根拠 2：	5 年後に10%以上の増を設定					
進捗状況 2：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
1,685,055（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	
-157%						
目標区分 3：	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 3：	その他（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 3：	粉河祭だんじり運行・飾付け基数			関連事業：	③④	
目標値 3：	【現状値】 平成 28 年度 8（基）⇒【目標値】 平成 33 年度 12（基）					
設定根拠 3：	5 年後に全だんじり保有町の運行を目指す設定					
進捗状況 3：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
7（基）	（基）	（基）	（基）	（基）	（基）	
-25%						

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	地域の文化遺産情報発信事業	実施団体：	紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実行委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	粉河祭開催中はもちろん市内の観光地スポットや観光協会等による観光PRイベント等において、平成26年度に作成した粉河祭PRパンフレットの配布及び観光DVDの上映を行う。また、いままで制作した粉河祭に関する映像を市観光協会HPや動画投稿サイトにアップし「粉河祭」の素晴らしさとともに地域の魅力ある観光資源を併せて相乗的に広く発信し誘客増を図る。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	粉河祭への来場者					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 52,000 (人) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 80,000 (人)					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
50,000 (人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
-7%						
事業②：	ひげこ制作講座事業	実施団体：	紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実行委員会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	平成27年度から「ひげこ制作講座」を開催しているが、伝統的なひげこの制作における技術的な習得には、ひげこ制作における各工程のスキルアップが必要である。ひげこ制作工程の細部にわたり撮影した解説付き「ひげこ制作保存・継承DVD」(平成28年度作成)も活用し、ひげこ制作講座でさらなるスキルアップを目指し、最終的には各だんじり保有町単独でひげこが制作できるようにしたい。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	だんじり保有町単独でのひげこ制作率					
目標値：	【現状値】 平成 27 年度 0 (%) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 50 (%)					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
10 (%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
20%						
事業③：	粉河祭シンポジウム実施事業	実施団体：	紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	粉河祭は、座や講が象徴する武士的・農村的な中世的な「渡御式」と、町人的・都市的な「だんじり」が共存する類例の少ないまつりである。渡御式においては、座や講の構成員が少なくなっていく状況で、渡御式に参加できない、稚児のなり手がいない等、座や講の存続につながる深刻な問題が発生している。平成31年度以降、「渡御式」をテーマにしたシンポジウムを開催し、渡御式における課題の洗い出しと講演会やパネルディスカッションを通じ今後の保存・継承について考え、話し合う機会を設ける。					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等(本事業の取組を除く)におけるソーシャルキャピタル数(協賛企業・団体、賛同者等)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	粉河祭協賛金					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 200,000 (円) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 1,000,000 (円)					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
500,000 (円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	
38%						

事業④：	継承のために用いる用具の修理事業			実施団体：	紀の川市文化遺産活用・観光振興・地域活性化事業実行委員会		
事業区分：	用具等整備			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	粉河祭の保存・継承に必要な用具を専門家に助言をいただき修理を行うことで、本来あるべき姿の粉河祭の保存・継承を支援する。 (平成30年度は中津川座剣修理、伯市講馬の鞍修理、石町だんじり車軸及び車輪修理、東町行燈幕修理、天福町緞帳修理)						
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	粉河祭保存会会員数						
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 82 (人) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 (人)						
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
82 (人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)		
0%							